

## 第6章 人的要因別火災状況

### 1 高齢者

○ 高齢者が行為者となった火災件数、火災による死者及び負傷者は前年より増加。

#### (1) 火災状況

ここでいう「高齢者の火災」とは、65歳以上の高齢者が行為者となった火災をいいます。

令和3年9月15日現在、全国の65歳以上の高齢者の人口は、推計で前年同月よりも22万人多い3,640万人で、日本総人口の29.1%を占めています。

また、令和4年1月1日現在、東京都内に住む高齢者は、東京都の総人口の22.8%にあたる314万5千人となっています（総務省・東京都調べ）。

#### ア 年別火災状況

最近10年間の高齢者の火災の発生状況をみたものが表6-1-1、年別火災状況と高齢者の火災の割合をみたものが図6-1-1です。

表 6-1-1 年別火災状況（最近10年間）

年 別	火災の種類										損害状況				
	合計	建物					林野	車両	船舶	その他	焼損床面積 (㎡)	焼損表面積 (㎡)	損害額 (千円)	死者	負傷者
		小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや									
24年	497	459	22	33	97	307	-	5	-	33	5,020	1,401	578,786	43	196
25年	511	450	27	20	82	321	2	16	-	43	4,314	1,387	925,063	45	191
26年	570	496	25	24	92	355	1	22	-	51	5,017	1,687	815,659	56	224
27年	508	453	23	24	81	325	-	12	-	43	4,254	1,530	618,056	38	185
28年	482	434	18	22	76	318	-	19	-	29	3,744	1,205	582,696	36	243
29年	568	511	26	25	97	363	-	15	-	42	5,379	1,746	1,064,526	35	208
30年	557	484	17	27	107	333	1	22	1	49	5,623	1,577	1,035,636	44	201
元年	536	479	23	22	96	338	-	19	-	38	4,519	1,516	791,417	50	192
2年	501	448	18	18	87	325	1	21	-	31	3,271	1,469	691,148	29	179
3年	541	483	25	31	83	344	3	19	-	36	6,435	2,824	1,064,242	39	193

○ 令和3年は541件発生し、前年と比べて40件増加。

○ 火災による死傷者をみると、死者が39人（前年比10人増加）発生し、負傷者は193人（同14人増加）発生。

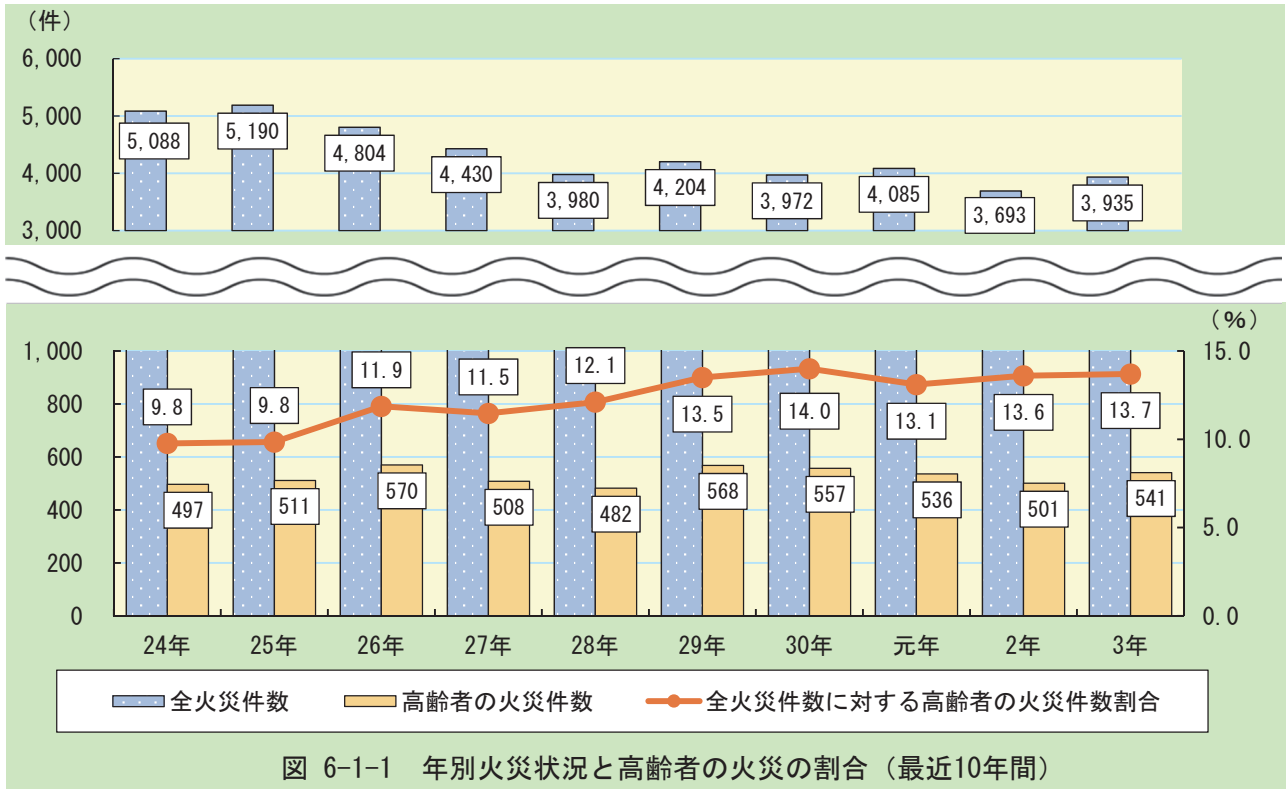


図 6-1-1 年別火災状況と高齢者の火災の割合（最近10年間）

注 火災件数は、治外法権火災及び管外からの延焼火災を除いています。

○ 全火災件数に対する高齢者の火災件数割合は13.7%（前年比0.1%増加）を占める。

## イ 高齢者の火災の月別発生状況

高齢者の火災の月別発生状況をみたものが表 6-1-2 です。

表 6-1-2 高齢者の火災の月別発生状況

年齢区分	月													
	合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
火災件数	3,935	449	378	384	375	283	282	280	257	230	277	331	409	
高齢者の火災件数	合計	541	76	59	54	48	40	31	31	27	26	33	51	65
	前期	239	30	24	21	21	18	10	19	13	15	14	25	29
	後期	302	46	35	33	27	22	21	12	14	11	19	26	36
発生率 (%)	13.7	16.9	15.6	14.1	12.8	14.1	11.0	11.1	10.5	11.3	11.9	15.4	15.9	

注1 火災件数は、治外法権火災及び管外からの延焼火災を除いています。

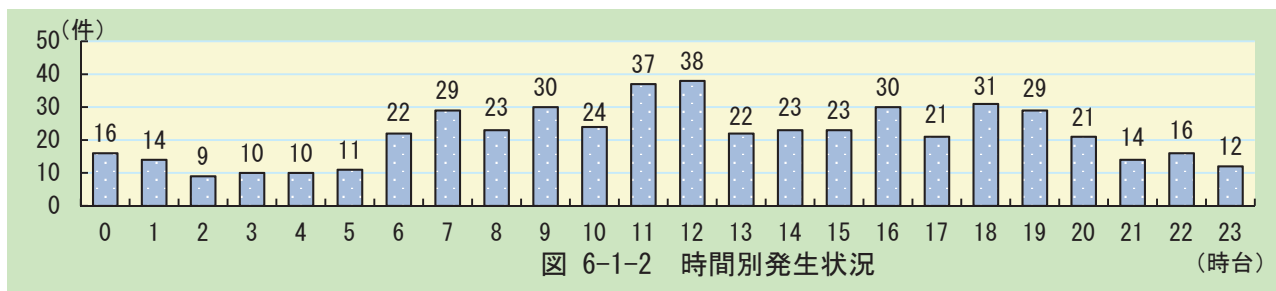
2 発生率は、火災件数のうち高齢者の火災が占める割合を示したものです。

○ 火災の多発する時期である1月から3月と、12月で計254件（47.0%）発生し、その中でも1月は76件（14.0%）と最も多い。

○ 年齢区分別では、前期高齢者が239件（44.2%）、後期高齢者が302件（55.8%）発生。

## ウ 時間別発生状況

時間別発生状況をみたものが図 6-1-2 です。



注 高齢者の火災の時間別発生状況は、出火時分が不明（26件）の火災を除いています。

- 1日を通じて最も多く発生している時間帯は12時台で38件（7.4%）発生。

## エ 建物用途別発生状況

行為者とその年齢が判明している建物から出火した火災1,881件を居住関係（住宅・共同住宅）と居住関係以外に分けたものが表 6-1-3 です。

表 6-1-3 居住用途別建物火災発生状況

区分	建物から出火した火災件数	居住関係			居住関係からの発生率（%）	居住関係以外
		小計	住宅	共同住宅		
合計	1,881	1,306	456	850	69.4	575
高齢者以外の火災	1,405	897	276	621	63.8	508
高齢者の火災	476	409	180	229	85.9	67

注 高齢者の建物火災483件のうち建物以外から出火し建物に延焼した火災7件を除いています。

- 行為者が高齢者で建物から出火した火災476件のうち、居住関係の用途は409件（85.9%）発生し、高齢者以外の火災と比べて居住関係から発生する割合が高い。

## (2) 出火原因別発生状況

高齢者と高齢者以外の主な出火原因別発生状況をみたものが表 6-1-4 です。

表 6-1-4 高齢者と高齢者以外の主な出火原因別発生状況

区分	合計	主な出火原因											
		ガステーブル等	たばこ	放火	大型ガスこんろ	電気ストーブ	差込みプラグ	ロウソク	コード	コンセント	電気こんろ	溶接器	その他
合計	2,245	346	282	104	85	74	48	38	37	36	30	30	1,135
高齢者以外	1,704	217	208	87	72	39	41	19	26	23	22	27	923
高齢者	541	129	74	17	13	35	7	19	11	13	8	3	212
前期高齢者	239	48	36	9	8	11	3	5	5	5	2	2	105
後期高齢者	302	81	38	8	5	24	4	14	6	8	6	1	107

注 全火災件数 3,935 件（治外法権火災及び管外からの延焼火災を除く。）のうち、行為者とその年齢が判明している火災 2,245 件の値になります。

○ 行為者が高齢者である主な出火原因別の上位 3 位をみると、「ガステーブル等」が 129 件（23.8%）と最も多く、次いで「たばこ」が 74 件（13.7%）、「電気ストーブ」が 35 件（6.5%）。

## (3) 発見・通報・初期消火等の状況

### ア 発見・通報・初期消火状況

行為者が高齢者で建物から出火した火災 476 件の火災発見者及び通報者についてみたものが表 6-1-5、初期消火が行われた火災 323 件の初期消火従事状況と初期消火従事時の火災の状態をみたものが表 6-1-6 です。

表 6-1-5 発見者及び通報者の状況

区分	合計	住戸の居し住者	行為者	近隣者	同居建物者	通行人	関係以外者	勤同一務建物員	所出の火した勤務員	外上記来以外者	同居一住敷地者	その他
発見者	476	163	130	56	53	24	9	9	9	6	4	13
通報者	476	100	44	97	77	44	31	18	13	7	3	42

表 6-1-6 初期消火従事状況と初期消火従事時の火災の状態

区分	合計	物具出 が又火 燃はし 焼着た 中火器	材立 がち 燃上 焼が 中り	物二 が次 燃的 焼着 中火	延出 焼火 拡室 大内 中が	炎火 元 上建 物 中が	状災天 態が井 で達等 延焼し に中火	焼出 拡火 大階 中が延	その他・ 不明
合計	323	192	49	23	11	8	8	2	30
消火成功	242	163	33	17	1	-	3	-	25
消火失敗	81	29	16	6	10	8	5	2	5
成功率 (%)	74.9	84.9	67.3	73.9	9.1	-	37.5	-	83.3

注 行為者が高齢者で建物から出火した火災 476 件のうち、初期消火が行われた 323 件の値になります。

- 発見は、「出火した住戸の居住者」が 163 件 (34.2%) と最も多く、次いで行為者である高齢者自身が 130 件 (27.3%) など。
- 通報も、「出火した住戸の居住者」が 100 件 (21.0%) と最も多く、次いで「近隣者」が 97 件 (20.4%)、「同一建物の居住者」が 77 件 (16.2%) など。
- 初期消火に成功した 242 件 (74.9%) のうち、消火時の火災の状態別でみると「出火した器具又は着火物が燃焼中」で消し止めたものが 163 件 (67.4%) と 6 割以上を占める。

## イ 避難状況

行為者が高齢者で建物から出火した火災 476 件のうち、避難行動があったものは 93 件 (19.5%) です。このうち、避難に支障があった 10 件の支障理由をみたものが表 6-1-7 です。

表 6-1-7 避難上の支障理由

区分	出火階	出火階の 直上階	出火階の 直上階以外 の上階	死者	負傷者
合計	6	3	1	3	12
報知がなされなかった	1	1	-	/	/
パニック状態となった	1	-	-		
避難経路が分からなかった	-	-	1		
廊下が火煙で利用できず	-	1	-		
その他	4	1	-		

- 避難に支障があった 10 件 (10.8%) で、死者が 3 人、負傷者が 12 人発生。

## 2 工事関係者等による火災

- 作業区分別にみると、溶接関係が32件で最多となっており、次いで電気作業関係が17件となっています。
- 前年に比べ火災件数は増加していますが、焼損面積、損害状況及び傷者は減少し、最近10年間で最少となっています。

### (1) 火災状況

「工事」の火災とは、工事現場、工事中の建物から出火した火災や、工事に関連して発生した火災をいいます。また、工事に関係した火源により、工事現場以外の場所から出火した火災（以下「近隣火災」という。）も含まれます。

#### ア 年別火災状況

工事関連火災の年別火災状況をみたものが表6-2-1です。

表 6-2-1 年別火災状況（最近10年間）

年 別	火災の種類									損害状況				
	合計	建物					車 両	船 舶	そ の 他	焼 損 床 面 積 ( $m^2$ )	焼 損 表 面 積 ( $m^2$ )	損 害 額 (千円)	死 者	負 傷 者
		小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や								
24年	114	66	1	3	18	44	5	1	42	550	406	155,358	-	19
25年	136	84	3	2	23	56	4	-	48	1,193	622	449,266	1	29
26年	110	65	8	3	17	37	1	-	44	1,882	801	315,979	-	13
27年	92	54	-	2	10	42	2	-	36	483	185	136,268	3	30
28年	82	45	2	2	10	31	3	-	34	1,001	655	819,127	-	15
29年	98	58	1	1	9	47	1	-	39	359	128	95,818	-	28
30年	96	55	-	1	11	43	2	-	39	700	5,256	2,467,340	5	81
元年	102	57	-	2	15	40	2	-	43	997	342	2,274,206	3	30
2年	88	40	2	1	12	25	2	-	46	2,865	482	1,867,839	-	21
3年	100	55	1	-	13	41	1	-	44	143	120	39,142	-	4

- 建物火災の件数は15件増加しているが、程度別にみると全焼及び半焼は各1件減少しているのに対し、ぼやが16件増加。
- 前年と比べて焼損床面積は2,722  $m^2$ 、焼損表面積は362  $m^2$ 減少しており、いずれも最近10年間の焼損面積として最も少ない。また、損害額も減少しており、最近10年間で最も少ない。
- 死者は発生しておらず、傷者は前年同期に比べ17人減少。

## イ 工事別発生状況

工事現場から出火した火災 100 件の作業区分別の工事種別についてみたものが表 6-2-2、火災と作業との関係がない建物工事の出火原因別の工事種別をみたものが表 6-2-3 です。

表 6-2-2 作業区分別の工事種別

作業区分別	工 事 種 別															
	合 計	建 物 工 事					設 備 工 事					土 木 工 事			鉄 道 ・ 地 下 鉄	そ の 他 の 工 事
		小 計	新 築 工 事	改 装 工 事	解 体 工 事	補 修 工 事	小 計	電 気 工 事	管 工 事	機 械 器 具 設 備 工 事	そ の 他 の 設 備 工 事	小 計	道 路 舗 装 工 事	そ の 他 の 土 木 工 事		
合 計	100	71	26	20	17	8	16	11	2	1	2	3	1	2	2	8
溶接・溶断作業	32	28	10	3	14	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	3
電気作業	17	4	2	2	-	-	12	10	-	1	1	1	-	1	-	-
塗装作業	7	6	1	1	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
掘削作業	4	3	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
床張り・壁張り作業	4	4	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アスファルト溶解	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
配管作業	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	18	11	4	4	2	1	2	1	-	-	1	1	-	1	1	3
火災と作業との関係なし	16	13	5	5	1	2	1	-	1	-	-	1	1	-	-	1

表 6-2-3 出火原因別の工事種別

出 火 原 因	工 事 種 別				
	合 計	建 物 工 事			
		新 築 工 事	改 装 工 事	補 修 工 事	解 体 工 事
合 計	13	5	5	2	1
放 火 ( 疑 い 含 む )	6	4	-	1	1
た ば こ	3	1	1	1	-
そ の 他	4	-	4	-	-

注 「火災と作業との関係なし」の16件のうち建物工事から発生した火災13件をみたものになります。

- 建物工事の火災で作業区分別にみると、最も多いのが溶接・溶断作業で28件(39.4%)発生し、このうち工事種別をみると解体工事が14件(50.0%)、新築工事が10件(35.7%)。
- 設備工事の火災は16件(16.0%)発生し、このうち電気工事が11件(68.8%)で6割以上を占める。
- 火災と作業との関係が無い建物工事における出火原因別の工事種別をみると、13件のうち6件(46.2%)が放火により出火し、そのうち新築工事で4件発生。

(2) 出火原因

主な出火原因と作業区分について見たものが、表 6-2-4 です。

ア 主な出火原因

表 6-2-4 主な出火原因別と作業区分

出火原因		作業区分									
		合計	溶接・溶断作業	電気作業	塗装作業	掘削作業	壁張り作業・床張り作業	等の溶解作業	アスファルト配管作業	その他	火災と作業との関係なし
合計		100	32	17	7	4	4	1	1	18	16
電気設備機器	小計	29	-	12	1	2	3	-	-	7	4
	屋内線*	6	-	2	-	1	1	-	-	2	-
	分電盤	4	-	3	-	-	1	-	-	-	-
	コード	3	-	1	-	-	-	-	-	1	1
	屋外線	3	-	-	-	1	-	-	-	1	1
	充電式電池	3	-	-	1	-	1	-	-	1	-
	制御盤	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-
	LED	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-
	差込みプラグ	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-
	漏電遮断器	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-
	コンセンスト	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	ダウンライント	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	トランス	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-
配電線(高圧)	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
三相モータ	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
溶接関係	小計	27	27	-	-	-	-	-	-	-	-
	アセチレンガス切断器	10	10	-	-	-	-	-	-	-	-
	ガス切断器	10	10	-	-	-	-	-	-	-	-
工事機器関係	電気溶接器	7	7	-	-	-	-	-	-	-	-
	小計	21	3	1	5	-	1	1	1	9	-
	研磨機(グラインダ含む)	9	1	-	1	-	-	-	1	6	-
	ブタンガストーチバーナ	7	1	-	4	-	1	-	-	1	-
	電気のこぎり	2	-	-	-	-	-	-	-	2	-
	エンジンカッター	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
放たされたその他不明	発電機	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-
	溶解がま	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-
放たされたその他	6	-	-	-	-	-	-	-	-	6	
たばこ	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
その他	10	1	3	1	2	-	-	-	-	2	1
不明	4	1	1	-	-	-	-	-	-	-	2



## イ 作業区分別発生状況

最近5年間の作業区分別火災状況をみたものが表6-2-5です。

表 6-2-5 作業区分別発生状況（最近5年間）

年 別	合 計	作 業 区 分									
		断 溶 作 接 業 溶	電 気 作 業	塗 装 作 業	掘 削 作 業	張 床 張 り 作 業	張 床 張 り 壁	等 の 溶 解 作 業	ア ス フ ア ルト	配 管 作 業	そ の 他
29年	98	52	16	1	1	-	2	2	2	6	18
30年	96	32	12	7	-	5	-	1	11	28	
元年	102	34	16	2	2	4	2	6	20	16	
2年	88	29	11	3	5	2	2	3	11	22	
3年	100	32	17	7	4	4	1	1	18	16	

## ウ 溶接・溶断作業

溶接・溶断作業の火災で火花が飛散、落下することによって発生した火災27件のうち着火物をみたものが表6-2-6、着火物までの飛散距離をみたものが表6-2-7です。

表 6-2-6 溶接・溶断器の着火物

着 火 物	件 数
合 計	27
合 成 樹 脂 合 成 樹 脂 成 型 品	7
く ず 類 ご み く ず ・ 木 く ず 等	6
野 積 み 木 切 れ ・ 廃 材	3
可 燃 性 固 体 断 熱 材 ・ 防 音 材	2
紙 ・ 紙 製 品 ダ ン ボ ー ル ・ 新 聞 紙 等	2
織 維 類 織 維 製 品	2
そ の 他 そ の 他	5

表 6-2-7 着火物までの飛散距離

飛 散 距 離	件 数
合 計	26
50 cm 未 満	5
50cm 以 上 1 m 未 満	6
1 m 以 上 2 m 未 満	5
2 m 以 上 5 m 未 満	4
5 m 以 上	6

注 飛散距離が特定できない1件は除いています。

## エ 作業関係以外の出火原因

放火の出火箇所と着火物をみたものが表6-2-8です。

表 6-2-8 放火の出火箇所と着火物の状況

出 火 箇 所	着 火 物					
	合 計	合 成 樹 脂	木 く ず	ダ ン ボ ー ル	ご み く ず	不 明
合 計	6	1	1	1	1	2
建 物 工 事 中 の 建 物	2	-	1	1	-	-
建 物 以 外 敷 地 内 等	4	1	-	-	1	2

- 工事現場から出火した火災は100件で、最近5年間でみると、令和元年に次いで多い。
- 「溶接・溶断作業」で火花が飛散することによって発生した火災のうち、着火物で最も多いのが「合成樹脂成型品」の7件（25.9%）で、次いで「ごみくず・木くず等」が6件（22.2%）となっている。

### 3 着衣着火

○ 建物火災のうちの42件(97.7%)がぼや火災。令和3年は1人の死者が発生し、死者の発生率は、前年と比べると3.4ポイント減少。

#### (1) 火災状況

着衣着火火災とは、何らかの火源により人の意志に反して、身につけている衣類に着火した火災をいいます。例えば、調理中のガステーブルの火や灯明\*の火が衣服の袖口に着火するなどの火災が該当します。

着衣着火火災の年別火災状況をみたものが表6-3-1です。

表6-3-1 年別火災状況（最近10年間）

年 別	火災の種類別										損害状況					死者発生率 (%)
	合計	建物					車 両	船 舶	そ の 他	焼 損 床 面 積 (㎡)	焼 損 表 面 積 (㎡)	損 害 額 (千円)	死 者	負 傷 者		
		小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や										
24年	85	76	1	1	2	72	-	-	9	117	132	11,213	4	81	4.7	
25年	71	62	-	1	3	58	-	1	8	63	11	8,286	8	65	11.3	
26年	79	69	-	-	3	66	-	-	10	39	13	4,630	8	72	10.1	
27年	66	60	1	-	3	56	-	-	6	147	3	5,542	7	64	10.6	
28年	65	59	-	-	1	58	1	-	5	-	1	575	7	66	10.8	
29年	56	52	1	1	2	48	-	-	4	83	57	13,011	4	54	7.1	
30年	52	47	-	1	2	44	-	-	5	38	7	40,660	4	47	7.7	
元年	68	65	-	-	1	64	-	-	3	10	40	640	3	62	4.4	
2年	76	64	-	-	1	63	-	-	12	-	2	513	4	71	5.3	
3年	52	43	-	-	1	42	-	-	9	10	18	3,070	1	53	1.9	

#### (2) 出火原因

主な出火原因と死傷時の状態別をみたものが表6-3-2です。

表6-3-2 主な出火原因と死傷時の状態別状況

区 分	合 計	主な出火原因										死傷時の状態						
		ガ ス テ ー ブ ル 等	ロ ウ ソ ク	花 火	こ 大 型 ガ ス	電 気 ス ト ー ブ	放 火	溶 接 器	た ば こ	そ の 他	家 事 従 事 中	作 業 中	初 期 消 火 中	採 暖 中	飲 食 中	火 遊 び 中	そ の 他 ・ 不 明	
火災件数	51	35	5	3	1	1	1	1	1	3								
死者(人)	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
負傷者(人)	53	37	5	3	1	1	1	1	1	3	29	4	3	2	1	1	13	

### (3) 火災による死傷者

着衣着火火災の死傷者 54 人を受傷程度別でみたものが表 6-3-3 です。

表 6-3-3 程度別受傷状況

区	分	合	計	死	亡	重	篤	重	症	中	等	症	軽	症						
合	計		54	1		1		11		20		21								
高	齡	者	以	外		25		-		-		4		8	13					
高	齡	者			29		1		1		7		12	8						
高	齡	者	の	占	め	る	割	合	(%)	53.7		100.0		100.0		63.6		60.0		38.1

- 主な出火原因別の上位 2 位をみると、ガステーブル等が 35 件（68.6%）と最も多く、次いでロウソクが 5 件（9.8%）発生し、ロウソクで死者が 1 人発生。
- 死傷者をみると、高齢者が 29 人（53.7%）発生。